

第11回東アジア原子力フォーラム 全体スケジュール 2025/8/28時点

期間: 2025年10月14日(火)～18日(土)

日付	予定
10/14(火)	(JAIF事務局フライト案) 12:45-14:55 東京成田 → 釜山金海 (Korean Air KE2130) ※空港→ホテル移動: KAIF手配
10/15(水)	第11回東アジア原子力フォーラム @慶州
10/16(木)	テクニカルツアー @蔚山、釜山 ・KHNP セウル原子力発電所 (Saeul NPP) ・KEPCO KPS 原子力整備技術センター (NMEC)
10/17(金)	テクニカルツアー (伝統文化体験) @慶州、釜山
10/18(土)	(JAIF事務局フライト案) 16:00-18:15 釜山金海 → 東京成田 (Korean Air KE2131) ※ホテル→空港移動: KAIF手配

宿泊

★10月14日～17日(3泊)

Lahan Select Gyeongju (ラハンセレクト 慶州)

<https://www.lahanhotels.com/gyeongju/en/main.do>

1泊 200,000₩ (約20,000円)・朝食付き (KAIF手配・支払い方法確認中)

住所: 338, Bomun-ro, Gyeongju-si, Gyeongsangbuk-do (Sinpyeong-dong)

電話番号: (+82) 54-748-2233

★10月17日～18日(1泊)

釜山市内ホテル (調整中)

韓国原子力の動向

韓国の原子力は2025年1月1日現在で運転中26基・計2,621.6万kW、建設中2基（いずれもAPR1400）・計280万kWとなり、2023年の原子力発電量は1,805億kWhで全体の31.5%を占めた。新ハヌル2号機は2023年12月の初臨界と送電開始を経て、2024年4月5日に営業運転を開始し、韓国国内で運転中のAPR1400はセウル1・2号機、新ハヌル1号機と合わせて4基体制となった。APR1400は、2024年9月に建設許可が出た新ハヌル3・4号機と建設中のセウル3・4号機を含め、国内計8基となる見込みである。

政策面では、2024年5月に産業通商資源部の諮問委が第11次電力需給基本計画の草案を公表し、2038年までに大型炉3基とSMR1基の建設を盛り込んだ。同草案は2038年の電力需要を2023年比約30%増の1億2,930万kW、目標設備容量を1億5,780万kWとし、確定設備容量見通し1億4,720万kWとの差分1,060万kWを大型炉とSMRで補う計画である。さらに、2024年6月20日にはSMR産業ハブの創設が発表され、KAERIのSMART炉を基に官民でi-SMR開発を推進する方針が示された。

国際展開では、2024年4月にルーマニアと原子力協力のMOUを締結し、同年7月にはKHNPがチェコ増設プロジェクトで主契約者を巡る優先交渉権を獲得した。加えて、ポーランドやオランダで大型炉の受注活動を進め、10月にはフィリピンDOEとMOUを結び、バターン原発の復旧F/Sを実施予定である。

訪問施設

①KHNP セウル原子力発電所（Saeul NPP）

セウル原子力発電所（Saeul NPP）は韓国南東部の蔚山広域市にあり、韓国水力原子力（KHNP）が運営する原子力発電所である。旧称は新古里原子力発電所で、2022年に現在の名称に変更された。1・2号機は韓国が独自開発した次世代加圧水型軽水炉「APR1400」を採用し、各炉1400MW級の大型炉である。APR1400はOPR1000を基礎とし、安全性を高め設計寿命60年、耐震性の強化、炉心損傷確率の大幅低減などの先進的デザインを特徴とする。完全デジタル制御や新型緊急炉心冷却システムも装備し、経済性も優れている。

2024年4月には4号機が送電を開始し、本格商業運転に向けた試験段階を経ている。さらに同炉はUAEのバラカ原子力発電所へも輸出され、国際的にその技術力が認められている。韓国国内では脱原子力政策の影響下でも新設計画が進行中で、新ハヌル3・4号機として2030年代の完成を目指している。

関連記事

- 原子力産業新聞 2025.05.30
韓国 新ハヌル3号機が着工

<https://www.jaif.or.jp/journal/oversea/28171.html>

➤ 原子力産業新聞 2024.09.06

UAE バラカ 4 号機が営業運転開始

<https://www.jaif.or.jp/journal/oversea/24734.html>



②KEPCO KPS 原子力整備技術センター（NMEC）

KEPCO KPS が慶州市で運営する原子力整備技術センター（NMEC）は、原子力発電所機器の高度なメンテナンスと技術開発を担う施設である。原子炉冷却ポンプ、蒸気発生器、バルブなどの重要機器の精密検査、診断、修理を専門的に行い、プラントの安全運転を支えている。高度な非破壊検査設備を備え、国内すべての原発のメンテナンスをサポートするほか、UAE バラカ原子力発電所へのメンテナンス技術支援も提供している。

技術者育成にも注力し、韓国のみならず国際的に信頼される原子力メンテナンスの拠点として機能している。高い技術力と経験を活かし、設備の長寿命化や運用効率の向上に寄与している。

関連ウェブサイト

➤ KEPCO KPS NMEC パンフレット

<https://www.kps.co.kr/eng/support/brochure/boardList04.do>

